

2022 年度事業報告

1. 第 43 回大会の開催

第 43 回大会 期日：2022 年 6 月 11 日(土)～12 日(日) 場所：立命館大学 大会準備委員長：堀江未来会員、3 年ぶりに対面で行われ、参加申し込み 280 名、個人発表 51、共同発表 7、ケースパネル 2、ポスター発表 18、計 78 件の発表があった。

2. 『異文化間教育』第 56 号、第 57 号の編集と刊行（学会誌編集委員会）

第 56 号：2022 年 8 月に刊行した。

第 57 号：2023 年 3 月に刊行した。

第 58 号：2023 年 8 月に刊行予定。

第 59 号：2024 年 3 月に刊行予定。

第 60 号：投稿募集中。

3. 特定課題研究の企画・実施、公開研究会の開催、優秀発表賞の実施（研究委員会）

2023 年度の特定課題研究は、『移動』から異文化間教育研究を展開する「象徴的移動に着目して」をテーマとし、より参加型にしていくためにテーマに対する発表公募を行った。10 件の申し込みの中から学問分野や研究内容の異なる 3 名、小林元気会員（鹿児島大学）、塩入すみ会員（熊本学園大学）、山崎哲会員（一橋大学大学院）を登壇者、指定討論者として郷司寿郎会員（長崎大学）に決定した。

【第一回公開研究会】

2022 年 12 月 17 日（土）13：00～16：00 にオンラインで第一回公開研究会を実施した。最大 40 名（会員 30 名、研究委員会関係者 10 名）の参加があった。本テーマである「象徴的移動」について参加者とともに発想を広げ、理解の幅を広げることをねらいとした。

【第二回公開研究会】

2023 年 3 月 26 日（日）9：30～12：30 にオンラインで実施した。最大 30 名（内研究委員会関係者 10 名）の参加があった。郷司寿郎会員及び川島裕子会員（関西大学）が指定討論を行い、参加者同士が「『象徴的移動概念』を導入する意義とは何か」を切り口にブレークアウトルームにて議論をした。あえて象徴的移動に着目することで、より複雑に移動する人々の様相を捉えることが可能になるという有用性のほか、なぜ「変容」ではないのかなど、活発な議論がなされた。

特定課題研究のテーマを発展させるために、公開読書会、講演会を実施した。

【公開読書会】

2023 年 2 月 11 日（土）16：30-18：30 に、「象徴的移動」という概念やそれをめぐる議論に対する理解を深めることを目的とし、オンラインで実施した。最大 19 名（会員 9 名、研究委員会関係者 10 名）の参加があった。基礎文献として Hage, G. の書籍ハージ, G., (2022) 『オルター・ポリティクス-批判的人類学とラディカルな想像力』と「存在論的移動のエスノグラフィ」（伊豫谷登士翁編『移動から場所を問う-現代移民研究の課題』 pp. 27-49.）を取り上げた。「象徴的移動」を複数の学術領域や多様な概念枠組との関係性において理解することの重要性に気づくことができた。

【オンライン講演会】

2023年3月4日（土）13:00-15:00に、オンラインで実施した。塩原良和氏（慶應義塾大学）をお招きし、「異文化」の理解から「異なる世界に生きる人々」の理解へー実存的移動性とリアリティの越境についてーのタイトルで講演していただいた。当日は最大58名（申し込みは96名：会員65名、非会員31名）の参加があった。本講演会は、特定課題研究のテーマである象徴的移動や実存的移動性について、日本の文脈に触れながら理解を深めるよい機会となった。

【優秀発表賞の実施】

第43回大会で実施した。優秀発表賞審査委員会が審査をした結果、張 慧穎 会員（お茶の水女子大学大学院）「中国人留学生の留学の成果と満足度とその関連要因ー困難への対処方略を中心にー」に決定した。優秀発表賞受賞者の張 慧穎 会員には、賞状および副賞が第44回大会総会にて授与される。

4. 研修会、講演会、著者と語ろうの会の企画・実施（企画委員会）

【オンライン読書会】

▶第9回『「グアム育ちの日本人」のエスノグラフィー』（2022）ナカニシヤ出版

著者：芝野淳一

企画委員：渋谷恵、高橋美能

2022年6月18日（土）10:00～12:00に開催し、参加者は39名であった。

▶第10回「多様性が拓く学びのデザイナーー主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践（2020）明石書店

著者：佐藤智子（著、編集）、高橋美能（著、編集）、江口怜、島崎薫、プレフューメ 裕子、菊池遼、藤室玲治、縣 拓充（著）

企画委員：渋谷恵、高橋美能

2022年7月23日（土）10:00～12:00に開催し、参加者は21名であった。

▶第11回：『国際移動の教育言語人類学ートランスナショナルな在米「日本人」高校生のアイデンティティー』（2021）明石書店

著者：小林聡子 聞き手：佐藤郡衛

企画委員：渋谷恵

2022年9月3日（土）10:00～12:00に開催され、参加者は27名（学生会員5名、非学生会員4名を含む）であった。

▶第12回：『外国人の子どもへの学習支援』（2022）金子書房

著者：齋藤ひろみ（著、編集）、浜田麻里、池上摩希子、村澤慶昭（著）

企画委員：渋谷恵、高橋美能

2023年1月21日（土）に開催され、10:00～12:00に開催し、参加者は20名であった。

▶第13回：『多様性を再考する マジョリティに向けた多文化教育』（2021）上智大学出版

著者：坂本光代（編）、杉村美紀、出口真紀子、宮崎幸江、渋谷恵（著）

企画委員：渋谷恵、高橋美能

2023年3月25日（土）10:00～12:00に開催され、参加者は22名であった。

【基礎文献コレクション】

異文化間教育学における基礎文献を検討・共有するための作業として、異文化間教育学の基礎文献コレクションを作成することを目的に実施した。投稿数が少なかったため一般公開は見合わせる。

【研究ヒストリーアーカイブ】

異文化間教育学会の発展に大きな役割を果たした会員の研究ヒストリーを対談形式で伺い、テキスト及び動画データとして記録した。

第1回 10月29日(土) 佐藤郡衛会員(聞き手 渋谷真樹理事長)

第2回 2月12日(日) 中島智子会員(聞き手 岸田由美会員)

【異文化間教育(学)比較研究】

多様な地域における異文化間教育や近接領域における教育がどのように展開されているのか、共有の機会を設定した。

▶インターカルチュラル・カフェ キックオフ第1回

2022年11月25日(金) 15:00~16:30に開催され、テーマは「多様な地域の異文化間教育から考える」とした。参加者は34名であった。菊地かおり氏(筑波大学・非会員・イギリス)、島埜内恵氏(白鷗大学・非会員・フランス)、高橋春菜氏(盛岡大学・会員・イタリア)に異文化間教育や異文化間教育的な営みについて話題提供をいただき、ディスカッションを行った。移民や難民をめぐる教育について、制度や実践の話の短い時間ながらまとめて聞く機会となった。また、「inter-」をめぐる概念、それぞれが持つ比較の視点についてなどにも話が及んだ。

▶インターカルチュラル・カフェ キックオフ第2回

2023年3月17日(金) 15:00~16:30に開催され、テーマは「多様な地域の異文化間教育から考える~アジアの異文化間教育から考える~」とした。参加者24名であった。金美運^{きむみよん}会員(熊本学園大学)、金井里弥会員(仙台大学)から韓国の多文化化とシンガポールの宗教間理解について話題提供をいただいた。比較の視点からの知見、各国の文脈でどのように海外の研究が参照されていたり、影響を及ぼしているか、「インターカルチュラル」や「社会統合」というタームがどのような文脈で用いられているのか、ということについて議論がなされた。

▶インターカルチュラル・カフェ キックオフ第3回

2023年5月19日(金) 15:00~16:30 テーマは「多様な地域の異文化間教育から考える~北米とオセアニアの異文化間教育から考える~」とした。参加者32名であった。塚田英恵会員(一橋大学)、青木麻衣子会員(北海道大学)からカナダとオーストラリアにおける先住民をめぐる教育実践や研究について、権力性をキーワードにして話題提供をいただいた。地域性や先住民の間のポリティクス、異文化間教育の意義、目標設定、先住民にとって意義のある研究とは何を指すのかについて議論がなされ、海外でフィールド調査を行う上での困難などが共有された。

5. ニュースレター、メールニュースの編集と配信(事務局、広報・ICT委員会)

2022年10月1日付でニュースレター第70号をHPに掲載した。また、「異文化間教育学会メールニュース」の配信は、学会活動や会員間交流に関する情報メールを152件会員へ配信した。

6. ウェブサイトの更新・改修とオンラインによる活動の充実(広報・ICT委員会・事務局)

ウェブサイトのリニューアルを行い、新たに英語ページも開設した。旧サイトと合わせて71件のHP更新をおこない、情報を掲載した。他の委員会と連携し、オンライン講演会のデジタル配信の他、

Instagramの運営を開始した。

7. 研究成果の発信促進（グローバル展開委員会）

【第32回研修会】

2022年11月20日（日）13:30～16:30、第32回研修会「みんなで考えよう：異文化間教育研究のグローバル展開」というテーマで研修会を開催した。参加者は35名であった。

国内外で精力的に研究成果を発信している研究者と日本から世界への学術的貢献を志す大学院生である徳永智子会員（筑波大学）、櫻井勇介氏（広島大学）、程文娟・猿田静木氏（広島大学大学院）の経験に耳を傾け、活発な意見交換が行われた。

【第33回研修会】

2023年2月14日（火）17:30～19:30、テーマは「国際共同研究の意義と課題：成功の謎を紐解く」とし、研修会を開催した。参加者は、42名（講演者1名、グローバル展開委員4名を除く）であった。プルー・ホームズ教授（英国ダラム大学大学院教育研究科）を招いてオンラインで開催された。欧米に傾斜しがちな力関係に働きかけ、文化的差異を汲みながら対話を進める共同研究は、研究者自身の異文化感受性と実践力が問われるだけでなく、さらに培われる機会でもあることを考える時間となった。

【英語セッション】

第44回大会の英語セッション発表申込を行い、個人発表6件、共同発表1件、ポスター発表1件（優秀発表賞エントリー3件、学生会員奨励事業1件）の申し込みがあった。発表後、委員会メンバーがフィードバックを行う。

8. 海外研究者との交流、海外の関係学術団体・機関との連携（グローバル展開委員会）

海外学術団体との交流の在り方として、まず広報・ICT委員会と連携し、学会HPの関連学会に海外学術団体の情報を掲載するための準備を行った。

9. 会員間の交流・ネットワーキングの促進、会員のキャリア・プランニングの支援（ネットワーキング委員会）

【第43回大会交流会】

2022年6月12日（土）12:00～13:00、「ふらっと交流サロン」を開催した。参加者47名（ネットワーキング委員4名含む）であった。今回の企画では、できるだけ多くの方と知り合っていたきたいと考え、前半・後半ではグループを変えて交流をしていただき、研究・実践を共に深める仲間づくりができた。

【第1回ネットワーキング交流会】

2022年10月8日（土）13:00～16:00、「アートで自分と世界のタイムラインを探る、語る、創造する」を開催した。笠原広一氏（東京学芸大学）をお迎えし、アートベースのオート・エスノグラフィを体験しながら、交流できる機会を企画した。参加者24名（内委員4名、オブザーバー1名）であった。参加者の一定数の方々は、既にアートベースの活動やワークショップ運営に関して経験を持っていたことが確認できた。これらの経験者の方々により、ワークショップにおけるアクティビティがスムーズに実施できた上、交流も深まったと感じた。

【第2回ネットワーキング交流会】

2023年2月25日(土)13:00~15:10、「研究・実践お悩み相談ゼミ ーオンラインでつながり、研究や実践を共に耕そうー」を開催した。参加者は、18名(発表者5名、参加者8名、ネットワーキング委員5名)であった。「発表者」は、悩みや迷いも含めて気軽に今自分が行っている研究や実践について発表した。発表者・参加者ともに高い満足度を得られた。

10. 教育関連学会連絡協議会の参加(ネットワーキング委員会)

2023年3月11日(土)教育関連学会連絡協議会総会に参加した。

11. 学会の中長期的な展望やその実現可能性の構想(将来構想委員会)

事典編集委員会に「異文化間教育事典」の活用について検討するよう依頼した。

12. 学会論文賞の選考(学会論文賞選考委員会)

52号・53号(2020年)~54号・55号(2021年)の学会誌から論文賞選考委員7名により選考が行われた。常任理事会・理事会の承認後、井濃内歩会員の『わたしたちのことば』に創発する居場所一留学生の逸脱的日本語によるあそびの分析から一(55号掲載)に決定した。44回大会総会にて表彰を行う。

13. 『異文化間教育事典』の刊行(事典編集委員会)

2022年6月に刊行となった。刊行を記念し、2022年6月12日(日)「異文化間教育の継承と創造」をテーマとするシンポジウムを開催した。各項目から佐藤郡衛氏「異文化間教育の方法と理論」、渋谷真樹氏「異文化間教育の対象」、工藤和宏氏「異文化間教育の領域」を執筆された3名にご登壇いただき、事典に記載された項目を手がかりに、異文化間教育に関する研究・実践のこれまでを振り返った。今後、異文化間教育は何を創造していけるかに関し、参加者全員で議論を深めた。

14. プレセミナーの実施(事務局)

2022年6月10日(金)13:00~17:00「これからの異文化間教育を共創するーAppreciative Inquiryを使って語り合い、未来のビジョンを描くワークショップー」というテーマでプレセミナーを実施した。参加者は20名でじっくりと対話を重ね、気づき学び合う貴重な機会となった。4時間のワークショップでは、異文化間教育に対するこれまでの経験や願いを共有し合うペアワーク、これからの異文化間教育の最高の姿を思い描くイメージワーク、参加者同士で語り合いながら教育実践・活動について具体化していくグループワークを行った。

15. 学生会員支援事業(事務局)

第43回大会において、若手研究者支援の一環として、条件を満たす年次大会発表者の大会参加費を免除(返金)した。エントリー4名が手続きをした。

16. 選挙実施(事務局・選挙管理委員会)

2022年12月末~2023年1月31日の期間に実施した。選挙管理委員長は山田亜紀会員(玉川大学)、選挙管理委員は小松翠会員(東京工業大学)。投票率は16.4%であった。

17. 会員数

2023年3月31日現在の会員数は、名誉会員13名、正会員797名、学生会員139名、通信会員11名、休会3名、維持会員4団体の計963名・4団体。